

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 11-003545

(43)Date of publication of application : 06.01.1999

(51)Int.Cl.

G11B 7/24
 B42D 15/10
 G02B 6/00
 G06K 19/06
 G06K 19/10
 G11C 5/00
 G11C 17/08

(21)Application number : 09-154198

(71)Applicant : FURUKAWA ELECTRIC CO LTD:THE

(22)Date of filing : 12.06.1997

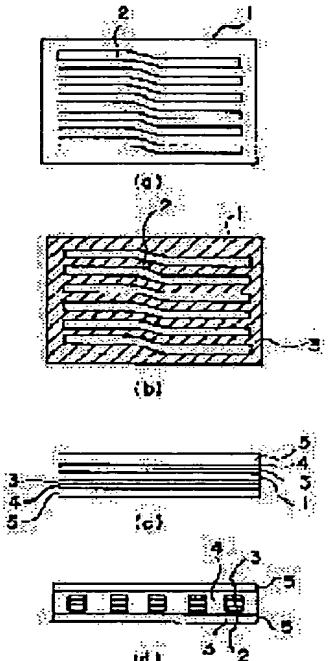
(72)Inventor : NISHIGUCHI MASAMI

(54) OPTICAL ROM CARD

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To facilitate manufacture and to make information rewriting and alteration difficult by covering plural optical waveguides which are held by covers and are optically parted according to need with clad layers via thermally irreversible thermosensitive layers which are degraded in transmittance by heating of core parts.

SOLUTION: A polycarbonate sheet 1 is blanked to form the core part 2 patterns constituting the plural optical waveguides having bent parts. A soln. prepared by dissolving two kinds of thermosensitive materials is applied on the surfaces of the core parts 2 and is dried, by which the thermosensitive layers 3 are formed. Next, both surfaces of the sheet covered with the thermosensitive layers 3 are held by PET films 5 constituting covers via UV resin adhesives added with carbon constituting the clad layers 4. Both ends of the sheet 1 and the PET films 5 are cut to separate the plural core parts 2 and to expose the ends of the core parts 2 for light input and output. When the optical waveguides are heated by a hot head, the thermosensitive layers 3 are changed to black and the optical waveguides may be optically parted. The alteration of the once inputted information is thus made difficult.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-3545

(43)公開日 平成11年(1999)1月6日

(51) Int.Cl.⁶
G 11 B 7/24
B 42 D 15/10
G 02 B 6/00
G 06 K 19/06
19/10

識別記号
5 7 2
5 1 1

F I
G 11 B 7/24
B 42 D 15/10
G 11 C 5/00
G 02 B 6/00
G 06 K 19/00

審査請求 未請求 請求項の数 1 OL (全 4 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願平9-154198

(22)出願日 平成9年(1997)6月12日

(71)出願人 000005290

古河電気工業株式会社

東京都千代田区丸の内2丁目6番1号

(72)発明者 西口 雅己

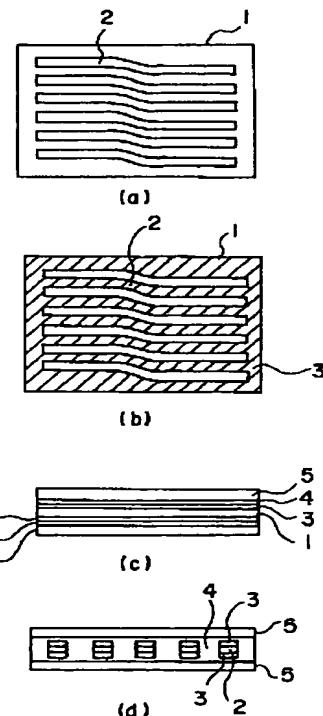
東京都千代田区丸の内2丁目6番1号 古
河電気工業株式会社内

(54)【発明の名称】光ROMカード

(57)【要約】

【課題】 情報を容易に記録することができ、かつ、記録内容を変えて変造することが困難な光ROMカードを提供する。

【解決手段】 表裏両面を構成するカバー5と、該カバー5に挟まれ、必要に応じて光学的に分断される複数の光導波路を備えた光ROMカードであって、前記光導波路は、コア部2が加熱により透過率が低下する熱的に不可逆な感熱層3を介してクラッド層4で覆われて構成されている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 表裏両面を構成するカバーと、該カバーに挟まれ、必要に応じて光学的に分断される複数の光導波路を備えた光ROMカードであって、前記光導波路は、コア部が加熱により透過率が低下する熱的に不可逆な感熱層を介してクラッド層で覆われてなることを特徴とする光ROMカード。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、複数本の光導波路を有し、これらの光導波路を適宜、光学的に分断することにより情報を記憶させる光ROMカードに関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来のプリペードカードなどのROMカードでは、表面に形成されたストライプ状の磁気媒体に情報を書き込み、それを読み出す磁気記録方式が主に用いられている。このストライプ状の磁気媒体には、偽造、変造を防ぐための高度の暗号技術が使用されている。また、ROMカードには、パンチ穴の有無を光で検出する光検出方式も用いられている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、従来の磁気記録方式のROMカードでは、高度の暗号情報を盛り込んだとしても、磁気複写による複製が可能であり、カードの偽造、変造がなされやすいという問題があった。また、光検出方式のものも、導波路に穴をあけて光が通らなくなった導波路に、透明な材料を埋めてしまうと光が透過し、読み取り機がパンチ穴を検出できなくなるため、偽造もしくは変造がなされやすかった。本発明は、上述した問題に鑑みなされたもので、その目的は、作製が容易で、情報の書換えが困難で、変造しにくい光ROMカードを提供することである。

【0004】

【課題を解決するための手段】 本発明は、表裏両面を構成するカバーと、該カバーに挟まれ、必要に応じて光学的に分断される複数の光導波路を備えた光ROMカードであって、前記光導波路は、コア部が加熱により透過率が低下する熱的に不可逆な感熱層を介してクラッド層で覆われてなることを特徴とするものである。

【0005】 本発明では、光導波路を構成するコア部とクラッド層の間に、情報を検出する光の波長の透過率が加熱により低下する感熱層が設けられているので、カバーの外側から熱ヘッドで所望の光導波路に熱を加えることにより、感熱層のその光導波路に接する部分の透過率を低下させ、その光導波路を光学的に分断して、情報を記録することができる。感熱層は熱的に不可逆であるので、一旦透過率が低下すると、もとに戻ることがなく、記録内容を変えることは困難である。

【0006】 本発明において、感熱層を構成する感熱材

料は熱的に不可逆の感熱材料である。また、その透過率が加熱により低下する温度は80℃～170℃程度であると、情報を記録しやすくなる。また、この感熱材料は加熱前には透過率が高いことが望ましい。また、この感熱材料を塗布して感熱層を形成する場合には、感熱材料をコア材を侵さない溶剤に溶解させて塗布し、また透過率が変化しない加熱温度で感熱層を形成する必要がある。

【0007】 また、本発明において、コア部を構成するコア材料は、ポリメタクリル酸メチル、ポリカーボネート、ポリアリレート、ポリスチレン、ポリエチレンテレフタレート、ポリブチレンテレフタレートなどで、厚さが2mm程度の全光線透過率が80%以上のものであれば特に限定しないが、ポリメタクリル酸メチル、ポリカーボネート、ポリアリレート、ポリスチレンがよい。これらのコア材料はシート状に加工され、このシートを光導波路の形状に打ち抜く工程を経て、その上に感熱材料を塗布する。あるいは、このシートに予め感熱材料を塗布した後に、光導波路形状に打ち抜き、表面に感熱層を有するコア部を形成する。

【0008】 また、コア部を覆うクラッド層を構成するクラッド材料としては、コア材料よりも屈折率の小さい材料で、ポリメタクリル酸メチル、ポリウレタンプレポリマー硬化物、ZEONEX（日本ゼオン（株）製）やARTON（日本合成ゴム（株）製）などのノルボネン環樹脂、フッ素化エポキシ樹脂、非晶質フッ素樹脂、種々のUV樹脂、シリコーン樹脂などが挙げられる。クラッド層は、熱可塑性樹脂をコア部を侵さない溶剤に溶解した後にコア部に塗布し、乾燥する方法や、熱硬化性樹脂を塗布し、硬化させる方法で形成することができる。なお、クラッド層はその外側のカバーとの接着層を兼ねるようにもよい。

【0009】 また、外力からカードを保護するカバーの材料としては、ポリエチレンテレフタレート、ポリブチレンテレフタレート、ポリカーボネート、ポリアリレート、ポリスルホンなどを用いることができる。

【0010】 さらに、カバーと光導波路部を接着させるために、熱融着性、熱硬化性、UV硬化性などの接着剤が用いられる。この接着剤としては、例えばエチレン酢酸ビニル共重合体樹脂系、超低密度ポリエチレン樹脂系、リニアローデンシティポリエチレン樹脂系等の熱融着性樹脂、アクリル系の熱硬化性またはUV硬化性樹脂など特に限定しないが、接着時に感熱層が変化しないように加熱の必要がないUV硬化性樹脂が好ましい。なお、接着剤からなる接着層が透明である場合には、光導波路に光を入れる際に漏洩光が接着層部位を伝搬し、光導波路を光学的に遮断した後にも光が伝搬するという問題があるので、接着剤は不透明である方が良い。ここで言う不透明な接着剤とは、厚さ5mmの全光線透過率が40%以下、好ましくは20%以下である樹脂のこと

ある。透明性の接着剤については、酸化チタン、カーボン、その他の顔料を加えることにより、適宜着色して用いることができる。また、不透明接着剤においても、信頼性を向上させるために着色して用いると、一層好ましい。

【0011】本発明の光ROMカードは、例えば以下の方法で作製することができる。第1の方法は、シート状のコア部材を光導波路の幅に打ち抜いて、複数のコア部を端部が連結した状態に形成し、その表面に感熱材料を塗布して感熱層を形成し、その外側にクラッド層を形成する。さらにその外側に接着層を介してカバーを接着させる。最後に、光導波路の両端をカットして複数のコア部を分離し、光入出力を行うコア部の端部を露出させる。また、第2の方法は、シート状のコア部材の表面に感熱材料を塗布して感熱層を形成し、また、その外側にクラッド層を形成する。その後、光導波路の幅にカットして複数の光導波路を形成し、これらの光導波路を並べ、接着層を介してカバーを接着させる。最後に、光導波路の両端をカットして、光入出力を行うコア部の端部を露出させる。

【0012】なお、本発明の光ROMカードの表面に磁気ストライプを形成し、これにも情報を記録すると、情報が2重に記録され、信頼性が一層高くなる。

【0013】

【発明の実施の形態】以下、図面に基づいて本発明の実施の形態を詳細に説明する。

(実施形態1) 図1 (a) ~ (d) は、本発明にかかる光ROMカードの一実施形態の製作工程を示す図である。その工程は以下の通りである。即ち、1) 先ず図1 (a) に示すように、0.15mm厚のポリカーボネートシート1を打ち抜いて、曲がり部を有する複数の光導波路を構成するコア部2のパターンを作製する。各コア部2の幅は0.8mm、長さは10cmである。2) 次いで、図1 (b) に示すように、感熱材料であるPSD-150 (日本曹達(株)製) およびD-8 (日本曹達(株)製) をそれぞれ、トルエン15重量%、キシレン45重量%、酢酸エチル20重量%、酢酸ブチル20重量%の混合溶媒に2重量%溶かし、これらの溶液を1:2で混合する。この混合溶液をコア部2の表面に塗布し、乾燥して、感熱層3を形成する。3) 次いで、図1 (c) に示すように、感熱層3で被覆されたポリカーボネートシート1の両面をUV樹脂接着剤を介してカバーとなるPET (ポリエチレンテレフタレート) フィルム5で挟む。この接着剤は、カーボンを2%加えたUV樹脂接着剤、KP-2006 (日本合成ゴム製) であり、クラッド層4となる。そして、照射量0.8JのUVを照射して接着材を硬化させる。4) 次いで、図1 (d) に示すように、ポリカーボネートシート1およびPETフィルム5の両端を切断し、複数のコア部2を分離し、光の入出を行うコア部2の端部を露出させる。

【0014】このようにして作製した本実施形態の光ROMカードについて、光源として660nm波長のLEDを用い、この光源とコア径50μmのGI (Graded Index) ファイバを結合させ、GI ファイバから光を光導波路に導入し、1mmφのプラスチック光ファイバで受光することにより伝送損失を測定した。なお、レフアレンスとしては上記GI ファイバとプラスチック光ファイバを突き当てたものを採用した。このようにして測定した本実施形態の光導波路の伝送損失は12dBであった。また、光導波路の全体を熱ヘッドで200°C、2秒間加熱したところ、透過光は測定感度以下であり、伝送損失は測定不可能であった。なお、加熱後の光ROMカードを解体したところ、感熱層3が黒色に変色しており、光は感熱層3に吸収され、コア部2を透過しない状態になっていた。このように熱ヘッドで光導波路を加熱すると、光導波路を光学的に分断することができるので、一度情報を入力した光ROMカードを変造することは困難になる。

【0015】(実施形態2) 実施形態1において、光導波路のコア部2の形状を直線状に変え、その幅を1mm、長さを60mmとした。その他は実施形態1と同じである。本実施形態の光ROMカードについて、実施形態1と同様に伝送損失を測定したところ、3.8dBであった。また、光導波路の全体を熱ヘッドで200°C、2秒間加熱したところ、伝送損失は測定不可能であった。

【0016】(実施形態3) コア材料として0.15mmのポリカーボネートシートを用い、これを打ち抜いて直線状のコア部を形成した。光導波路の幅は1mm、長さは60mmとしたことは実施形態2と同様である。本実施形態では、感熱材料の材質を代えて、感熱材料としてPSD-290 (日本曹達(株)製) とD-8 (日本曹達(株)製) を用いた他は実施例2と同様にした。得られた光ROMカードの伝送損失は4.2dBであった。また、光導波路の一部、20mm長を熱ヘッドで加熱したところ、伝送損失は測定不可能であった。解体したところ、熱ヘッドで加熱した部分のみ、感熱層が黒色に変色していることが確認された。

【0017】

【発明の効果】本発明によれば、情報を容易に記録することができ、かつ、記録内容を変えて変造することは困難であるという優れた効果がある。

【図面の簡単な説明】

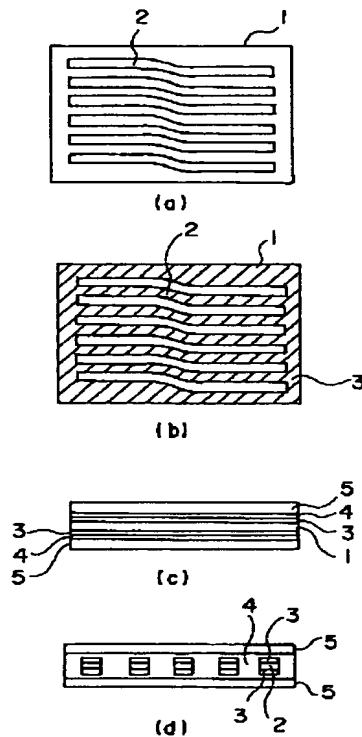
【図1】(a) ~ (d) は、本発明に係る光ROMカードの一実施形態の製作工程を示す図である。

【符号の説明】

- 1 ポリカーボネートシート
- 2 コア部
- 3 感熱層
- 4 クラッド層

5 PETフィルム

【図1】



フロントページの続き

(51) Int.C1.⁶G 1 1 C 5/00
17/08

識別記号

3 0 2

F I

G 0 6 K 19/00
G 1 1 C 17/00

R

3 0 1 A